

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271201848		
法人名	有限会社 カムアクロス		
事業所名	グループホームしいえす常盤平		
所在地	千葉県松戸市常盤平3-13-2		
自己評価作成日	平成21年8月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPO共生		
所在地	千葉県柏市光ヶ丘団地3-2-104		
訪問調査日	平成21年8月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ありのままがいいんだよ」の理念の下、グループホームという生活の場を提供させていただき、入居されている方々とスタッフが、より家庭的でキメの細かいお手伝いをさせていただければと、日々研鑽を積んでおります。心身ともにお元気で、互いの心が通じ合う喜び・楽しみは共有し、悲しみは分かち合い、苦しみは受け止められる我々でいたいと思っています。

各種セミナーの参加はもちろん、日々の学びで得たものと、専門性の高い学習により、より良い施設であるよう努力していきと、スタッフ一同頑張っております。

ご指導いただける関係各機関様はもちろん、ご協力いただけるご家族様との連携も、今後とも強固なものになるようお願いしたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護スタッフの熟練・良質のスキルが感じられる。

ここに至るまでの事業の維持とスタッフとの協働の成果が、スタッフによる上記「事業所記入」欄の謙虚なコメントに現れている。

地方公共団体で培った介護福祉事業への信念が、地域福祉現場で家族や地域から信頼を戴き、利用者・家族に安らぎの場を提供している。

スタッフともどもこのホームの、地道で息長い活躍を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ありのままがいいんだよ」の理念を確認しつつ、より良い介護ができるよう、居心地の良いホームであるように管理者・職員で確認しつつ邁進している。	判りやすく、容易に同調出来る理念は、掲示板に掲げられ朝礼の場所(参加者数7~8名)の入り口やホームのあちこちに掲示されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かけられるご入居者様のコースには、呉服屋さん、お花屋さん、パン屋さん等があり、程よい挨拶をかわしてください。	理念が日常化されている事業所の立地が商店街と住宅街の中間地点であり、生活者そのままでも過ごせる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1度の運営推進会議には、地域包括支援、民生委員等のご指導を賜うよう、またご家族のご協力を得ながら、地域に溶け込めるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター、介護相談員、ご虚力業者の方々のご協力、ご指導があってこそその施設なので、今後とも運営に関してはその時々テーマにそって問題を提起し、解決のご指導を仰ぎたい。	実践状況等は頻回に行われており、内容を会議録で確認した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護サービスの取り組み方など、細部にわたりご連絡はさせていただいている。その都度、丁寧なご指導をいただいているので、大変心強い。	自己評価のとおりであると受け止められる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「ありのままがいいんだよ」の理念の下、原則として施錠はしないことにするため、玄関ドアにパイプチャイムをとりつけている。	玄関ドアには、澄んだ音色のチャイムが吊るされている。耳慣れた澄んだ響きは、ホーム内の人の動きと、温かさを伝えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	前回の運営推進会議でも取り上げ、虐待に関してはいかなる場合でも見逃すことのないよう、職員で注意し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、ご利用になられるご利用者がいらしたときに、カンファレンスの課題として説明し理解を求めた。また、外部の社会福祉士や社会福祉協議会との連携もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居者様、ご家族様にわかりやすい説明をさせていただき、ご理解していただいた上で契約をしていただくように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常にきめ細かな対応をさせていただくように、コミュニケーションのとれやすい環境を作っている。ご意見・ご要望があれば、いつでもお受けするように窓口を設けたり、面会時の記録業を作成し、自由に申し出られるようにしている。	介護記録などで確認できている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼、申し送りノート等に上がってきた意見、提案は即、全体会議にて諮問し、早急に処理し、反映できるようにしている。	申し送りノート等は確認。一定の経過があったが、提案と全体会議での合議の仕組みが出来ており、機能している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常時面談希望は可能で、シフト、給与などの相談はできる。それらがやりがいに移行し、働きやすい環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、社内研修、社外研修と各人にあつた研修を提案し、外部研修参加者、有資格者、及び経験者が講師となって内部指導をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各研修会、連絡会などに参加させていただき、他のグループホームとの交流を持つことにより、互いの向上を促す場となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居間もない型の不安や換気用になれるまでの準備を多岐にわたり手伝いさせていただく。職員一人一人の特徴を生かし、楽しみを見つけていただくようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の今までの心労を察し、これまでと変わらぬ関係が維持できるようお役にたてるようにしている。不安が軽減できるよう、要望が少しでもかなうよう、協力させていただく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の現状・減価を把握し、どのサービスがニーズに合っているか計画作成に反映させ、歯科、ホームドクターと細やかな連携をとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの楽しみを把握させていただき、時にはイベントを企画し特技を披露していただいたり外出、お菓子作り、環境整備等の役割分担も決めさせた頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベントを企画するとともに、ご家族の参加を仰ぎ、ご一緒の時間を共有できるよう、各種催し物、お食事、ゲームなど楽しい時間を通し、ご家族、ご利用者、スタッフが一体となるようにしている。」		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	懐メロや郷土民謡、昔話等、色々な事柄にそれぞれが感動し、思い出しながら話せる機会を多く持つ。	楽しみに即応できる工夫をしている。出身地ごとの民謡のメモを用意したり、利用者のリクエストに即応できるよう職員が工夫をこらしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いはいたわりあうように、食事時でもお茶を入れる方、食事を運ぶ方、食事介助まで手伝ってくださる方もいる。姿が見えないと心配して探すような、本当の家族になっていると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時の支援経過記録や情報提供の依頼に応じて、退去後のほかのサービス利用がスムーズにいくよう配慮している。退去後のご家族からの相談は、随時親身に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートに聞きとった事を記入。農業経験者には、庭に再演を提供。中通う理の元店長さんと餃子作りなど、輝いていた時を再体験していただく支援をしている。	個別の記録による確認ができた。センター方式を使用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートによる聞き取りや、ミーティングや生活援助記録にて収集した情報から、ここに至る経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活援助記録に一日の様子を記録。受け答えや体の状況の変化を把握している。援助記録の記入に力を入れ、職員の観察力を養っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開いて、現場の職員から意見を聞いている。また面会時のご家族から要望や意見をうかがって、計画に反映させている。	月一回の担当者会議が記録されている。介護計画も家族のほとんどと共有されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活援助記録や申し送りノートを活用している。また、朝のミーティングでは個々の生活状況を細かく報告しあい、職員間の情報の共有や、共通理解に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	退院者のADLの回復及び拘縮予防に、ご家族と相談して外部のマッサージの利用など、社会資源の活用を提案していける体制を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地の利を得て施設前の桜並木で恒例の桜祭りに毎年参加。賑わいの中に溶け込んでいる。近くの西友に買い物に出かけ、店員さんの協力を得て好きなものを選ばせて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回に受診を受け、状況によってはご家族に連絡させていただいている。緊急時には提携を結んでいる総合病院に搬送できるシステムもできている。	公・私立二つの総合病院と協定を結んでいる。さらに私立病院に「利用者の入院ベッド確保」の契約を結んでおり、利用者をタライ回しから救っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診している医院の看護師と常に連絡を取り、相談、指導を仰いでいる。相談内容は日誌に記録している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご家族と連絡を取りながら、医師、看護師、相談員の方々と情報交換し、早期に退院し、元の生活に戻れるように綿密な関係作りを心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては検討中だが、スタッフ、ご家族とあり方については話し合いとしている。	契約時に話し合いは行っている。現実にターミナルケアに近い形が望まれるが、ターミナルケアの条件整備には至っていない。総合病院の訪問看護ステーションからの医師指示による処置を受けながら経過を見守るのが現状では精一杯である。	家族からの具体的な要望があるが、条件整備は困難であり、一刻を争う終末期の病院搬送に頼っている。これには職員に際限ない就労時間拘束と事業所負担の問題がある。現実に即した対応をとっているが維持が大変である。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡網を駆使し、県計画所への連絡を敢行するよう日頃から話し合っている。上級救命講習修了者から訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画に基づいて避難訓練を実施している。スタッフにも参加し、協力していただけるようお願いしている。	マニュアルと訓練実施記録がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の理解、ケアの必要性のマニュアルを順次作成し、ヘルパーステーションに用意するとともに、ミーティングにより一層の研さんに努めている。プライバシーに関するマニュアルを作成し、各人が確保できるようにする。	年月をかけ職員のスキルアップを強力に進めた経過が「評価書・自己評価」記述に表れている。なりふり構わず、GHの原点を究める経営姿勢と職員の力量が、利用者と家族に安堵を届けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で、変化に富んだ生活ができるように、必要に応じての買い物、気分転換の散歩、部屋の模様替え等、ご本人の意思を尊重し、協力するよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、就寝、起床時間等は、守っていただくが、プライベートは自由に行動範囲を広く取っていただくよう、声かけをしている。楽しみごとを多く作っていただけるよう、プログラムも用意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時の着替えから、イベントに参加のときのおしゃれ着等、自由に選んでいただいている。身につけるもので、気候の変化を感じていただくことにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	イベントや季節ごとの行事のメニューを考えたり、時にはオードブルから取り皿にというように変化をつけた内容にしている。食事の片づけ、洗い物は進んでして下さるご利用者さんもいる。	食事は楽しみであり、介護の重要部分を占める。季節ごとの行事食と同時に、毎日の献立への配慮も大切である。副菜の質、量、味付け、盛り付けなど、「食事を楽しむ支援」とは介護度進行阻止にとっても大切である。	体力維持に重要な蛋白質等の栄養バランス、食品群ごとの摂取量と栄養計算、調理技術の向上を促すなど、委託者として栄養面、調理技術面への改善要求に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給は常に心がけている。夏場は2000cc、冬場は1200cc。特に入浴後の補給に細心の注意をしている。食事内容については配食業者と連絡を密にし、細かく注文を出している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の水飲み、口腔体操等で、よだれを少なくし、嚥下をスムーズにできるよう、朝、食後、夜の口腔ケアと、月2回の歯科受診もやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記憶をもとにおおよその時を把握しトイレでの排泄ができるよう支援している。トイレでの排泄の心地よさを思い出していただきたく、声掛けをしている。	バイタルチェック等は行われている。評価で把握は困難。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確認、体を動かすよう体操、散歩など、食事内容等もスタッフが確認するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	好んで入られる方、拒否される方、それぞれのご希望を出されるが、なるべくその方に合った入浴方法にしている。拒否される方には足浴等をお勧めすることもある。	スタッフは利用者船員の好みやその日の状況をチェックし把握をしている。一人ひとりの体調や状態を見ながら、さりげなく温かい入浴支援をしている。足浴には白癬菌対応をしているという。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない方、不穏状態の方等、ほかの方に迷惑が懸らないよう、夜勤スタッフが傍について、安心して眠れるように対応する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ステーションにて担当者が個別に分けて管理者がその都度必要分のみ渡している。処方が変わった場合、申し送りノート及びミーティングにて全員が確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	高齢職人の経験ある方には設備関係を、水周り等お手伝いいただき、配膳、下膳、洗濯物の片付け等は女性陣が進んで手を貸していただき、庭の手入れの得意な方は庭の管理を多岐にわたり活躍されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣が商業地なので、散歩しながら出かける方もいるし、スタッフが社用で出かけるときはドライブと称し同乗される方もいる。面会されるご家族も外食に心がけて下さる。	安全上、管理上、職員・ご利用者の使用車は、公用車のみ、私物は使用させない仕組みである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の意味を理解できる方には近くの商店にお連れして買い物をしていただく。商品選びからレジの支払いまでしていただき、スタッフは見守るようにしている。お金を持つことで安心する方には少額の小口現金を持っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じてそのような機会を作っているが、先の七夕のように、短冊に自分の思いを伝えたい人を書いていただいた。手紙をいただくこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁飾り、制作した作品の展示物で部屋をリフレッシュしたり、テレビに関わらず、懐かしい音楽を流してリラックスしていただくように環境を整えている。	飾り過ぎない共用空間であった。利用者の子供扱いも感じられず、「ありのまま…」の、清潔で刺激の無い、穏やかな暮らしの空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外気浴をしていただくように、庭にソファを置いてある。仲間意識が高まり、食堂で歌を歌う方もいれば手拍子を打ったりと楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のお気に入りのもの、思い出のもの、自分で制作したもの等、思い思いに部屋に並べてある。調度品等も運びいれられるものなら部屋に置いてある。	施設内の部屋ごとに印象が違う。同スペースながら、住む人の生活歴がにじみ出ており、肩の凝らない「私の居場所」は、安心感を湛えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	間取りについては皆さんお分かりになっているが、間違えの無いように移動にはスタッフが必ず、慣れて覚えるまで見守りか介助をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271201848		
法人名	有限会社 カムアクロス		
事業所名	グループホームしいえす常盤平		
所在地	千葉県松戸市常盤平3-13-2		
自己評価作成日	平成21年8月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPO共生		
所在地	千葉県柏市光ヶ丘団地3-2-104		
訪問調査日	平成21年8月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ありのままがいいんだよ」の理念の下、グループホームという生活の場を提供させていただき、入居されている方々とスタッフが、より家庭的でキメの細かいお手伝いをさせていただければと、日々研鑽を積んでおります。心身ともにお元気で、互いの心が通じ合う喜び・楽しみは共有し、悲しみは分かち合い、苦しみは受け止められる我々でいたいと思っています。

各種セミナーの参加はもちろん、日々の学びで得たものと、専門性の高い学習により、より良い施設であるよう努力していき、スタッフ一同頑張っております。

ご指導いただける関係各機関様はもちろん、ご協力いただけるご家族様との連携も、今後とも強固なものになるようお願いしたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護スタッフの熟練・良質のスキルが感じられる。

ここに至るまでの事業の維持とスタッフとの協働の成果が、スタッフによる上記「事業所記入」欄の謙虚なコメントに現れている。

地方公共団体で培った介護福祉事業への信念が、地域福祉現場で家族や地域から信頼を戴き、利用者・家族に安らぎの場を提供している。

スタッフともどもこのホームの、地道で息長い活躍を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別紙4(3))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他()
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他(食事に関する指摘事項を職員、業者に伝え、業者に対し改善計画提出を要求している。)

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】				
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的
1	40	○食事を楽しむことのできる支援 項目で「食事の質・量・味付け・盛り付け」などに具体的指摘があった。また食卓の雰囲気などに対し、介護の重要な要素である食事かどうかという、問いかけがあり、自立度向上・症状緩和につながる食事サービスを求められた。調理技術・盛り付け等全般にわたり参考になった。。	美味しい食事は介護の重要な要素であるということに異論はない。費用対効果など、当方にも説明不足はあるが、具体的な指摘は受け止め、改善を業者に求めるべきとの意見に集約された。食材費用の乱高下があり厳しいが、取り組む事で意思一致した。。	高齢者、殊にGH利用者に適したあるが、現場を熟知している管理など美味しい調理の実践を学びた
2				
3				
4				
5				

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。